

2023年 公立高校入試

【合格体験記】

《一宮高校》

私は中学1年生の最初から入塾しました。レベルの高い高校を目指していた私は、1年生から真剣に勉強しました。

神田塾で過ごした3年間で一番辛いと感じたのは、受験学年である中3の「冬期講習会」です。中1から中3までの総復習ができる最後の期間であり、模試や『ザ・ファイナル（日曜講習）』で思い通りの結果が出ていなかった私は、今までにないような不安や焦りを感じていました。そこで私は毎日「今日は何を使ってどの分野を勉強するのか」という大まかな計画を立てるようにしました。苦手な理科を中心にどの教科もバランス良く勉強ができるように工夫し、自分の持っている知識を固め、実力アップを

図りました。

また、何をやるのかあらかじめ決めておくことで家や自習室でより勉強に集中することが出来ました。そしてこの学習サイクルが結果的に自分への「自信」につながりました。（この「机に向かう前に、必ずある程度の計画を立てる」という、プランニングの必要性は、塾から



常々言われていたことでしたが。）

受験を通して学んだことは、「努力し続けることの大切さ」です。ときに納得のいく結果が出ないこともありましたが、諦めず最後まで頑張り続けたからこそ第一志望である「一宮高校」に合格することができたと思っています。

受験生の皆さん。今年一年勉強ばかりで大変だと思います。限りある時間を大切にし、自分に合った勉強方法を見つけ入試当日に自分の持っている力を発揮できるよう一日一日を、時間を大切にして（いつも塾で言われて

いると思いますが)しっかりと頑張ってください。



最後になりましたが先生方、三年間本当にありがとうございました。テスト前になり、私の要求を汲んで過去問を何枚も刷ってくださったり、分からない問題を私が分かるまで説明してくだ

さったり等々、本当に感謝しています。また、テスト・入試で追い込まれている時にかけてくださった励ましやアドバイス等の様々なそして数々の言葉に、私は何度も助けられました。

本当にありがとうございました。

丹羽 彩華 ①神守中 ②中1

《一宮西高校》私は中学1年生の夏期講習会の時に入塾しました。私は、学校のテストで良い順位をとる、という目的で神田塾に入りました。なので入ったばかりの頃



は高校についてはあまり考えていませんでした。ですが、塾で高校についての話を聞くにつれて、次第に高校受験を意識するようになりました。

最初は、塾の授業のレベルが高くスピードも速かったので、全然ついて行く事が出来ませんでした。それに学校のテストの点数、順位もよくありませんでした。このままではいけない、と思い『間違い直し』を徹底するようにしたり、家での勉強時間を少しずつ増やしたりするようにしました。すると、2年生の最初のテストで初めて一桁に入ることができました。



そして、3年生になると、中2までとは違って、内容はグンと難しくなり量も増えたので1,2年生の時の勉強時間では到底足りませんでした。さらに、当然ながら周りの子達も勉強量を増やすので学校のテストで良い順位を取ることや塾で行われる模試で良い結果を取ることにも難しくなってきました。

私にとって一番大変だったのは「土曜講習」です。何より時間が長いので、慣れていない最初のうちはすごく疲れました。しかし、それを乗り越えるとその後に始まる「日曜講習」は、全く苦しさを感じることなく、しっかりと集中して取り組むことができました。やはり量をこなすことで、必然的に質は上がって行くということを、2つの講習を通して、強く実感しました。

受験当日は、今まで努力してきたことや先生方のアドバイスを思い出し、それほどには緊張せずにとり取り組むことができたと思っています。

受験生の皆さんへ。途中で「もう無理だ。」「逃げたい。」と思うこともあると思います。が、そんな時は必ず塾の先生方に相談してみてください。神田塾の先生方は必ず、真摯に相談に乗ってくれます。そして最後まで決して諦めずに努力し続けて下さい。

最後に、神田塾の先生方、本当にありがとうございました。

鈴木 海結 ①暁中 ②中1

《千種高校》



私は中学3年生の4月に入塾させて頂きました。入塾するまでは松蔭高校が第一志望でしたが、入塾する際の面談の時に「松蔭高校を目指してはそのレベル以上の実力はつかない。」と言われ、当時の自分の学力では到底届かない千種高校を第一志望にしました。授業や塾生対象の個別指導では、先生方が真剣に私たち塾生に向き合ってくださって、志望校を決めたからには「絶対に合格しよう。」と本気で思うようになって行きました。

夏期講習会からは本格的に入試対策が始まりました。私は1・2年生の範囲が全くできないことに気づき、塾のワーク類で苦手なところを何度も解き直しました。その時に大切だと思ったことは「間違い直しをしっかりとする」ことです。完全に納得して自力で解けるようになるまで繰り返す

ことで、苦手だった問題がだんだんと解けるようになって行くのが強く実感できました。

塾に入って特に辛いと思ったのは、1月の後半でした。今まではできていた問題が急にできなくなり、日曜講習の予想問題や最後の模試の結果がとて悪く、不安と焦りが出てきました。それまでは週に1回だった個別指導を週に3回に増やし、自習室も毎日行くようにしました。入試を目前に不安なところを少しでもなくすために、どこを重点的に勉強したら良いか、などのアドバイスをたくさん頂きました。先生方からのアドバイスを活かすことにより、私は今まで以上に集中して勉強に取り組む事ができるようになりました。最後には「これだけ勉強したから大丈夫。」と自信を持って入試に挑む事が出来ました。

第一志望に合格することができ、私は「最後まで諦めないことの大切さ」を学びました。短い間でしたが神田塾の塾生で良かったです。本当にありがとうございました。

野村 美羽 ①神守中 ②中3



《瑞陵高校》

僕は、中学2年の10月に神田塾に入塾しました。入塾したきっかけは、英語が難しくなってきた、学校のテストで英語だけ思うように点数が取れなくなってきたことです。初めは英語だけどこかの塾で習おうかというくらいの軽い気持ちでいたので、入塾してすぐに週3日の塾での勉強は慣れるまでが少し大変でしたし、何よりも僕の苦手だった英語の授業のレベルの高さにとても驚きました。「絶対について行く。」と、強く決心したのを覚えています。

3年生になって、塾の授業がない日は塾の自習室に通うことに決めました。家ではなかなか集中して勉強ができなかったけれど、周りが真剣に集

中している自習室では、学校の宿題や塾の課題に加え、何よりも塾の授業での「間違い直し」など、多くの勉強量を集中してやりきることが出来ま



した。中でも英語が苦手だった自分にとって、英語の間違い直し、例えば間違った英文を全て10回書くこと等は、辛く大変だったけれど、実力の伸びることを信じて頑張りました。また、僕がここまで多く

の時間を勉強に費やすことができたのは、塾と一緒に勉強する仲間がいたからだとも思います。周りを見ると、皆真剣な表情で授業に集中し、また日々自習室で勉強に取り組んでいる。「僕も努力で負けない。」と強く思いました。

夏休みには、夏期講習会があり、そこからほぼ毎日塾に通う生活になって行って、勉強量も必然的に相当に増えて行きました。

テストゼミでは、自分が得意とする数学、理科で他の塾生より良い点数が取れると、益々自信がつき勉強が楽しくなって行きました。

受験本番は、今まで何度も模試やテストゼミなどを受けてきたので適度

な緊張感を持って受けることができました。しかし、自己採点をして両方落ちて私立かも、と落ち込んで塾長に報告すると、第一志望校は分からないけれど、第二志望校は大丈夫と言われ、ほっとしたのを憶えています。



結果、第二志望校の「瑞陵高校理数科」に合格することができました。

第一志望校ではありませんでしたが、最後までやり切った、と僕は思っています。瑞陵高校を母校とし、これからも頑張っていきたいと思っています。

神田塾の先生方、最後まで支えて下さって本当にありがとうございました。

平野 智明 ①立田中 ②中2



《五条高校》

No.6

私は中学1年生の夏期講習会を機に神田塾に入塾しました。入塾したての頃は、塾のペースに余りついていけず戸惑うこともありましたが、回数を重ねるうちに徐々に慣れて行きました。

中学3年生になって私は自習室を使うようになりました。自習室を利用すると、みんなが本当に集中して勉強に取り組んでいました。その姿は私に「自分も頑張らないと。」という気持ちを強くかき立ててくれました。3年の夏休みでは、講習会、個別、自習室と、長く遅い時間まで塾に

いることがほぼ毎日続きました。そんな中で心の支え



となったのは、友達です。塾長がおっしゃって

○ いたように、友達、いわばライバルがいること

で、互いに高め合う事ができ、また勉強のやる気にも

つながったと思います。ほかにも勉強をする上で大切なことは、「間違い直し」でした。これを続けているうちに、私は苦手だった数学の関数と図形の融合問題が徐々に解けるようになって行くのが楽しかったです。



冬期講習会・日曜講習に入り例年より早い入試に不安を感じつつも、塾の先生方のアドバイスを心に噛みしめながら「絶対に第一志望校に合格する。」という気持ちを強く持って入試当日までやり切りました。結果は、第一志望校に合格することができま

した。私が受験を通して学んだことは、「時間を大切にすること」、そして「細かな計画を立てて日々積み重ねること」です。これらを忘れずに新しく始まる高校生活を頑張りたいと思います。神田塾の先生方、長い間本当にお世話になりました。色々な面でのサポート、心強いアドバイスのおかげで入試までの道のりを乗り切る事が出来ました。本当にありがとうございました。

石原 咲良 ①暁中 ②中1

《一宮西高校》

No.7

僕は、神田塾に入塾したのが中学3年生の夏期講習会からと、遅い時期でした。そのころの第一志望の高校は津島高校で、一宮西高校のこと等は全く考えていませんでした。ですが、模試の結果や、「土曜講習」と「日曜講習」のテストゼミの結果などで、少しずつ津島高校よりも上の高校を意識していくようになりました。そして、最終的な第一志望校の決定の最も大きなきっかけは、塾長からの言葉でした。塾長からの一宮西高校の提案がなければ、第一志望は違ったと思います。

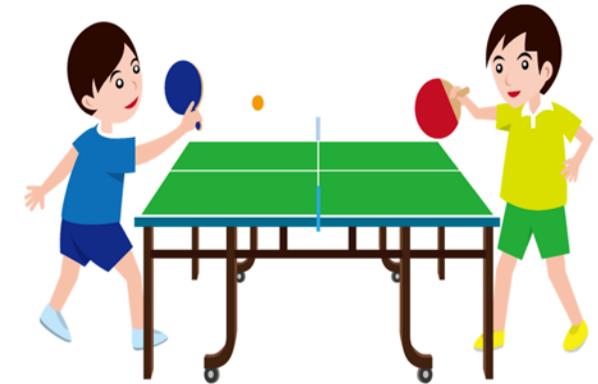


受験勉強を続ける中で特に意識したことは、物理的な勉強時間よりも集中した上での勉強量を大切にすることです。なぜかという、しっかりと集中をせずに勉強をする時間はあまり意味がないと思ったからで

す。(当然のことかも知れませんが。)例えば、集中せずにした2時間の勉強と、しっかりと集中してした1時間の勉強だと、後者の方が勉強量は多

いという事です。そのため、自分は集中ができなくなったら少し休憩をして勉強をする、などの工夫をしました。しかし、勉強時間が大切ではないというわけではないのです。なので、休憩をするときも、決して横にならずに短い時間で済ませて、机に向かう時間を増やすため、すぐに勉強に取り組めるようにしていました。

(この辺りのことも、塾から教わっていました。)



合格した後ですが、正直少しだけ後悔しています。僕は第一志望校が不合格になるのを怖がって、A判定の高校を選びました。なので、そこそこ余裕を持って合格をしたと思います。合格可能性の高い高校を受験するのも一つの手ですが、もし落ちてしまっても、人生の全てが決まる、というわけでもないため、できるだけ後悔のないように「チャレンジする」ことが大事だと感じました。ですが、しっかりと気持ちを切り替えて、高校生活に全力で突き進んで行こうと思

っています。

No.8

最後に、短い間でしたが、神田塾の先生方、いろいろなアドバイスや励まし、本当にありがとうございました。

山田 知弥 ①暁中 ②中3

《松蔭高校》

僕は中学1年生の10月に神田塾に入塾しました。神田塾に入ったのは、定期テストの順位を上げるためでした。3年生になるまでは志望校などは全く決めていなくて、ただ定期テストのために勉強をしているだけでした。そのため定期テストの順位は上がっていきました。が、2年生の冬に英語のテストが悲惨な点数になってしまい、英語の個別指導を受けることになりました。個別指導では、自分の分からない所を分かるようになるまでしっかりと説明をしてくれるので、英語の点数は改善して行きました。3年生の夏からは自習室を使い始めました。自習室では長い時間勉強をしますが、



集中していたためか、時間があっという間に過ぎてしまいました。しかし、自習室での勉強も含め、ほぼ毎日塾に通っていて正直辛い、と感じることもありました。ですが、自分の友達やほかの塾生も多数一緒に勉強をしていたため、そのことが「自分も負けな」と奮い立たせてくれ、頑張ることの支

えになりました。やはり塾長がおっしゃっていた通り、僕は互いに競い合うことのできる友達は受験には絶対に必要な存在なのだ、と分かりました。

受験当日、僕はとても緊張していました。しかし、塾で頑張った日々を思い出し、そして自分に「絶対に第一志望校に合格できる。」と言い聞かせると、少しは緊張感がなくなりました。英語のテストで難しい問題が出た時、「自分が分からないなら他のみんなも分からないだろう。」などと

思い、解いていました。前向きな考えをしていたので、ある程度心に余裕ができていたのだと思います。

今受験を頑張っている塾生の皆さん、前向きな考えを持ち、一日一日根気よく勉強を続けて行ってください。最後になりますが、神田塾の先生方、3年間本当にありがとうございました。高校でも頑張ります。

若松 龍雅 ①神守中 ②中1



《瑞陵高校》

私は中学3年の7月から神田塾に入塾しました。受験への意識が強まっていた頃、自分の行きたい高校もきまり、友達からの勧めもあって入塾しました。

3年生になってからは勉強がとても難しくなり、学校でもついていくのがやっとでした。それに加え、苦手分野というものも増えて来て、定期テストでも順位が伸びずに悩んでいました。しかし、神田塾に入塾してみると、理解できなかった問題は、先生方が丁寧に解説をしてくださったり、自分がなかなか勉強に身が入らないときは親身になって相談に乗ってくださいました。また、模試の結果が悪く焦っていた時等も、先生方は私を気にかけてくれ、しっかりと話を聞いてくれたりもしました。そんな先生方に支えられて、私は冬期講習会や日曜講習などで張り出される塾内の順位にも自分の名前が載るようになって行きました。また、神田塾では一斉授業の形態を取っているため、周りの塾生も同じように頑張っているんだ

なあとと思うと、「まだまだいける。」というやる気が出てきて、自習室でも、長時間集中して勉強できるようになりました。目標に向かって、真剣に頑張る仲間がいたからこそ、自分のモチベーションも上がり勉強に対する姿勢も積極的なものに変化して行ったのだと思います。



確かに、入試本番までの日数が減っていくにつれ、不安や緊張感は日毎に増してきました。けれども、多くの受験生を見てきた先生方の言葉は、私たちに大きな勇気を与えそして励ましてくれました。また、先生方だけでなく、共に成長してきた塾の仲間や両親の応援のおかげで、私は受験勉強を最後まで頑張ることが出来ました。塾での様々なことを通じて得た経験は、きっとこれからの私の自信につながっていくと思います。

最後に、後輩の皆さん、自分の行きたい高校のため、自分の将来のために、一日一日を精一杯努力してください。神田塾の先生方、短い間でしたが、本当にお世話になりました。これからの高校生活、いろんなことに挑

戦っていきたいと思います。ありがとうございました。

松永 華音 ①出身中学：暁中 ②入塾時期：中3

《一宮西高校》

私は、中学生になって2回目のテストが終わった頃に神田塾に入塾しました。塾に入るまでの私は勉強をするのが好きではなく、毎日ほとんど遊んでばかりでした。しかし、神田塾での初めての授業を受けた時、私は「このままでは駄目だ。」と痛切に思いました。周りの子たちは、塾のワークの問題をすらすら解いていて、正確な答えを導き出していました。私は、一問目からつまづいてしまい、答え合わせをするまでに数問しか解けていませんでした。周りとの明確な差に段々と焦りが生まれ、「早く追



つかないと。」という一心で、私は少しずつ家で勉強する時間を作るようにして行きました。さらに、2年生になってからは、個別指導に、3年生になってからは自習室に通うようにして、勉強する時間を増やしていきました。そして、勉強する際には、「直しをする」と、「分からない問題は塾で聞く」という事を常に意識しました。先生方から、分からない問題を分からないままに放置しては絶対にいけない、と常日頃教えられていたのですが、それを実行するようになってからは、新しい知識が身に付いていくことを実感でき、少しずつ勉強が楽しい、面白い、と思えるようになって行きました。

それでも、受験が近づくにつれて不安な気持ちが大きくなってしまふことがありました。そんな時、神田塾

の先生方の言葉は、本当に励みになりました。受験の前日は、塾生一人一人に声をかけて勇気づけてくれました。そのおかげで、当日は落ち



着いて問題に取り組むことができました。私が第一志望校に合格できたのは、神田塾の先生方や、塾と一緒に頑張った友人達、そして当日まで支えてくれた家族がいたからです。改めて、すごく有難いことだなあと実感しています。お世話になった人たちに、合格の発表をすることができて本当に良かったです。来年受験する塾生の皆さんも、神田塾の先生方を信じ、良い意味でほかの塾生と競い合い、そして周りの人への感謝を忘れずに、最後まで精一杯頑張ってください。

伊藤 ゆり ①神守中 ②中1

《菊里高校》

私は小6の3月、中1の授業が始まる時から神田塾に入塾しました。

3年間私は、「苦手を作らない」ことを心掛けていました。塾の先生方がいつもおっしゃっているように、一度間違えた問題は決してそのままにせ



ず、内容を完全に理解するまで『直しをする』ことがとても大切だと思います。私は勉強することがそこまで苦ではありませんでした。それはどの教科

にも苦手意識を余り持っていなかったからだと思います。間違えた問題は理解できるまで解き直していました。苦手意識を持つ理由は様々だと思いますが、内容が理解できていれば苦手意識は生まれません（多分）。模試は、結果に一喜一憂するのではなく、自分の得意分野や苦手分野を明確にし、自分の勉強の穴を一つ一つ埋めていくために活用して下さい。今思えば、この「苦手をつくらない」という事が私の受験の一番のポイントだったのではないかと思います。

私の代から入試制度の変更もあり、多少の不安を感じました。過去問のないマークシートの入試だったため、どんな形式の問題が出てても対応でき

るように、塾で使っている問題集を繰り返し解き、ゆるぎない確かな学力をつける事を意識しました。問題集がボロボロになるまでやれば、それだけ自分の自信につながると思いますし、実際に私はそうでした。

受験生の皆さんに伝えたいことは、まず、人と比べずに、自分に胸を張れる自分になれるだけの努力をして欲しい、という事です。「自分、努力してるな。」と感じる瞬間が多ければ多いほど、受験の結果がどうであれ、受験後に得られるものが大きいと思います。そしてもう一つ、私は3年間、志高く頑張っている仲間の姿に励まされ、努力を継続することができました。やはり共に頑張ることのできるよきライバルがいることは、入試に立ち向かう力を高めてくれるのだと思います。

入試当日信じられるものは、ただその日まで自分が積み重ねてきた努力だけです。皆さん、支えてくれる周りの人への感謝を忘



れず、決して悔いの残らないように真剣に頑張ってください。

最後に、神田塾の先生方3年間本当にありがとうございました。最後まで励まして下さった先生方には、とても感謝しています。神田塾に入って良かったと心から思っています。神田塾で学んだたくさんの方のことを忘れず、これからも頑張っていきます。

大島 怜 ①暁中 ②中1

